

紀伊國名所圖會

三編

高野山 五之卷

ル 4
325
16





紀伊國名所圖會三編卷之五

大門だいもん

地名ちのみ
山上十樂やまのうえのじゆらく

内外八葉峯うちげふちやうはつえふさ

禁止きんし

西院谷さいいんや

後川辨財天社のちがわ べんざい てんしゃ

來迎堂らいごうだう

大湯屋おほゆや

坊舎ぼうしゃ
七十六しじゅうろくにん

愛宕權現祠あたごごんげんすゐ

壇場だんば

中門ちゆうもん

金堂こんだう

大塔おほた

灌頂堂くわんていだう

御影堂ごえいだう

三鈷松さんこまう

鐘樓かねろう

準胝堂じゆんていだう

孔雀堂くわんぐうだう

新御塔しんごた

西塔さいた

丹生高野兩大明神社にぶみ たかの 両大明神 しゃ

鐘樓かねろう

閼伽井えんがゐ

龍臥洞りゆうぶどう

六角堂ろっかくだう

七株靈木しちぐすいれいぎ

飯糰の芝いひぐし

愛染堂あいぜんだう

盥漱盤くわんじゆばん



大會堂

三味堂 西行

東塔

蓮池

南谷

坊舍 七十

勸學院 救使門

大師堂 寶庫 鐘樓

遍照峰

虎が峰

地藏堂

大師堂

谷上

坊舍 六十

穀屋

一滴不動尊

大日堂 鐘樓

嶽辨財天社

本中院谷

坊舍 十四

瑜祇塔

蛇原

六時鐘樓 一切經藏

旦過堂

荒神社

興山寺 東照宮 巡寺八幡宮 御供所 巡寺大黒天

一心院谷

坊舍 二十

金輪塔

不動堂 鐘

心字池

五之室谷

坊舍 三十七

大徳院 御宮 位牌堂 御靈屋 御先祖堂 涅槃像 御殿屋敷

大師堂

極樂堂

首途辨財天

光臺院 寺中六坊

千手院谷

坊舍 四十八

千手觀音堂

萬日堂

青面金剛堂

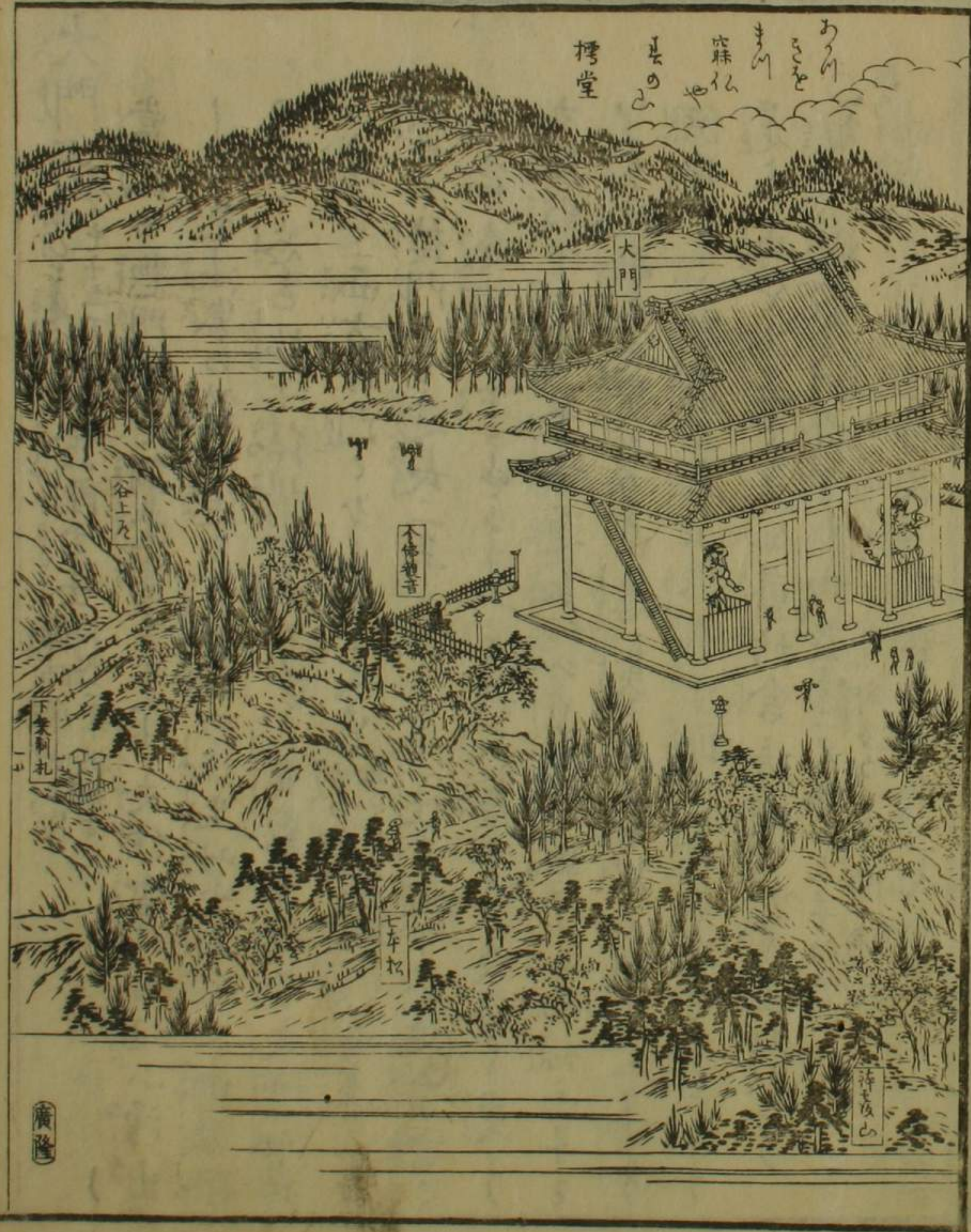
熊野權現社

合躰不動堂

秘井

天満宮

千手院橋



紀三彌五二

大門

西向の建つ
大塔まで十五丁

○金剛力士

佛師康意の作
室永二年供養す

當山の惣門として銅甍高き丈十丈徐雲外の岫小湧出

先法界の莊と現と希詣の衆生此に至りて漸攀躡

の疲と忘を始と結構の大なるを驚歎と往昔大師花表

と建つ西方の門となくと入ると古の門地へ人の門と寛喜二年

改め樓門とす建長二年 勅して法性寺殿下忠道公小書と

しつて遍額と下させしふと類朽瘵けしふ及びく更し

九條殿下光明峯寺道家公の真翰と懸しふ元禄元年

祝融氏の災ありと患集土せると以く同十三年より

経始しと實永二年ふ落慶す即今存とる所とまとなり

是より内と山上とふ伽藍坊舎透間もなく互及びり

○銅像觀音 大門の傍あり即長一丈二尺明和九年江戸

阿遮磴道幾盤回客子躋攀遠近來二八凌霄翠峰秀二下

終南師遺稿

千飛棟玉樓閣洞中龍卧雲烟黒山上仙遊冰雪堆故照
蒼顏窺石鏡林藜時復倚高臺

木村暗孝

翠壁丹崖自嶮巖攀來平坦最堪奇靈區互兵稱高野密
教儼然闢大基二犬導祥芟藪日三銘示瑞極松時儻非

世帝歸依萬那得布金長若斯

地名

壇場與院の外寺院あり地大狹しふと敷て其谷の稱あり谷とふへ

西院谷 坂川 湯屋谷 南谷 照圃 谷上 本中院谷

小田原谷 西光院谷 上壇 實相院谷 浄土院谷 湯

屋谷 向壇 往生院谷 往生峯 西谷 北谷 蓮華谷

室檀院谷 荅折谷 清淨心院谷 一心院谷 五之室

内外八葉峰

大塔の四方四隅に遠なる峯と内八葉といひ壇場與院の外

千手院谷 六坊小路

光臺院谷

姑射山 摩尼山 楊柳山 轉軸山 小塔峯 金剛峯
 山王峰 遍照峯 此上内の
 虎峰 劍峰 小塔峰 神應峰 山王峰 今來峯 遍
 照峰 業峰 此上内の
 惺寫文集

禁止 當山七里結疎の内 齋魅暴敷の在人民と結す年物も大く大師の加持ふ
 所の處かり又別よ禁止する所の種有り魚肉渚の臭味葷辛はさうろた
 禁山 山王峰 此上内の

○禁女人 堂の東に不動坂口如人

○禁管絃 僧尼令も累々又さうり當山元禁の教かり年文永八年の置文ふ
 鳳笙龍笛之聲動聞于壇上是則妨修學之魔障此則寂之靈害也設
 寄事於金髮何不違真慮乎永可禁過之とあり

○禁鉦鼓 當山元應永の北時分の禁とあり智真一河の二人より起り
 攝亂れんとす同二十年は禁止せり今行を回儀と存して也
 末は回國行都の証談とあり高野の僧尼は佛の回儀と存して也

○禁植有利竹木 竹梨柿棗胡桃漆ホカリ等ハ有利と
 一墓ひく譏謗とす後くとも利とあり

○禁射弓靴鞠 文永の頃院々の側小射的蹴鞠の放逸とあり去り修學
 あり是の事とあり射の事とあり蹴鞠の事とあり

○禁博戲圍碁雙六等 未使僧尼は童子ホとも此遊と免たり犯
 大例行事鈔の僧尼律とあり碁とあり雙六とあり

○禁畜諸禽獸 山中ハ殊ハ嚴重とあり猫鶏の類は結界の中ハ禁
 律カ一但狐與狸の白狐等ハ由來あり寺家の境内ハ火盜の難を
 防ぐに性々傳記ありとあり

○禁入牛 河内國ハ馬と牛とを畜する事とあり牛を畜する事とあり
 河内國ハ馬と牛とを畜する事とあり牛を畜する事とあり

○禁竹帚 三股竹帚とあり竹帚とあり

性靈集 高野結界啓白文
 沙門遍照金剛敬白十方諸佛而部木曼荼羅海會衆五
 類諸天及以國中天神地祇并此山中地水火風空諸鬼
 等云々幸頼諸佛加持力幽明機熟之力以去延曆二十

三年入彼大唐奉請大悲胎藏及金剛會兩部大曼荼
羅法並一百餘部金剛乘平歸本朝云々依金剛乘秘
密教設建立兩部大曼荼羅仰願諸佛歡喜諸天擁護善
神誓願證誠此夏所有東西南北四維上下七里之中一
切惡鬼神等皆出去我結界所有一切善神鬼等有利益
者隨意而住

畜狗

種々の故事ありと云ふ

山上諸の禽獸を畜すまは嚴禁なるを狗とせし飼つる源
と因縁ありと云ふ大ら上古 應神天皇の御宇 或は崇神
天皇の御宇 紀伊國の黒犬一伴淡路國三原郡白犬一伴ふその
口代の田及大飼人と添へて信守明神小寄附したまひし
より明神の使隸と稱し大師請來の律あり爲防事故隨意
養狗と云ふ弘仁七年孟夏の比鼻祖大師城外より徑

歷しと云ふ時大和國宇知郡にて一人の獵者小遇と云ふ小
袖青衣を着し身長八尺許りと筋骨逞しと弓箭を帯し
大小二ツの黒犬と隨送せり獵者大師と問答ありと云ふ
當山小前導せりと云ふ昔々所かり又建長三年明神
の御託宣記と云ふ種々の表示ある事と載り後世と云ふ
織田古府當山を攻伐んと云ふ時黒白二犬彼陣中走入
りより山徒の軍威熾盛しと終に敵陣小愛ありと云ふ山家
靜治と云ふと云ふ靈犬の助ありと云ふ今壇場小神犬ありと云ふ
畜つる糧三石あり上古の口代の遺意なりと云ふ双犬常々伽藍
神祠の畔と遊履しと云ふ他處不行す此外山上より多く畜つる
但北狗の結界入りと云ふ事と云ふ若偶ありと云ふあまのまをく山

山上十樂

明惠上人傳畧
記小載と



弘法大師
 入山
 指場
 赤
 なる
 と

紀三編五ノ六七

南

聞法結縁如意樂
上水下水自在樂
女人結界不俗樂
出家所住無上樂

道路清淨廣大樂
燒火不斷常住樂
官家不雜無畏樂

沐浴身躰隨意樂
遠離俗家不知樂
香華不退供養樂

時候

山上稍四ふりくかの八葉の峰四方小周々木立り暗く生え
かりくさ湯濛朧く満漚く晴く曇く四のこ定まれ
る事か一れを二月二月も冬ふく次河さうやうく三月の
末四月のふりめふりて梅櫻の類一時く咲くころく真涼
るゆふ櫻の北小應ゆけりや吉野ゆ願のちふかきまど
極樂浄土の七重れ寶樹眼のあかりなりけり人の教ふ
人まこといふことおのあきけり後ふ笑ゆるがふ心く

まきす
ろくかの五月の時を遠くすまむく出く五月雨晴
るはなやふまきわいつ黄泉路の言傳と終くかみ似る
るれどもやそまきの落く文とつものま

ほき次ゆおろもけりさうさ野の山れ晴のら
るゆ山佛の傍のあきとをけきさふあけれら
くがわのち民の御馬家や後の八内大臣実澄の教をこの
窓とまきまきとそくかん土とく六月七月もまきと
林と衣と着る事なく老僧をく綿入の衣とまきと
らうたづけを蚊の名らう経てまきと守すかきり日記
もまきと身く心地く甚安くまきと避け
るまきと北風原男もまきと八月むりまきと霜くまきと
谷く乃鹿のまきと想く一夜宿く旅人もまきとまきと
まきとのまきと絞るまきと紅葉くまきと黒漆の油まきと



續千載

新勅撰

續後撰

玉葉

新續古

月清

拾遺愚草

夫木抄

千首

建仁元年八月十五夜歌合

家集

草菴

雪玉

あつことる月の山はゆきや雪のりくと有明の月

野山ねくまて人の問ふは月峰の月をば

今あそひさる月の山は月とては月峰の月をば

君ふけはさる月の山は月とては月峰の月をば

さる月の山は月とては月峰の月をば

あそひさる月の山は月とては月峰の月をば

あつことる月の山はゆきや雪のりくと有明の月

野山ねくまて人の問ふは月峰の月をば

今あそひさる月の山は月とては月峰の月をば

君ふけはさる月の山は月とては月峰の月をば

さる月の山は月とては月峰の月をば

寂蓮法師

参議成頼

源具親朝臣

俊成

僧正栄縁

後京極撰政

中納言定家

般富院大輔

師兼

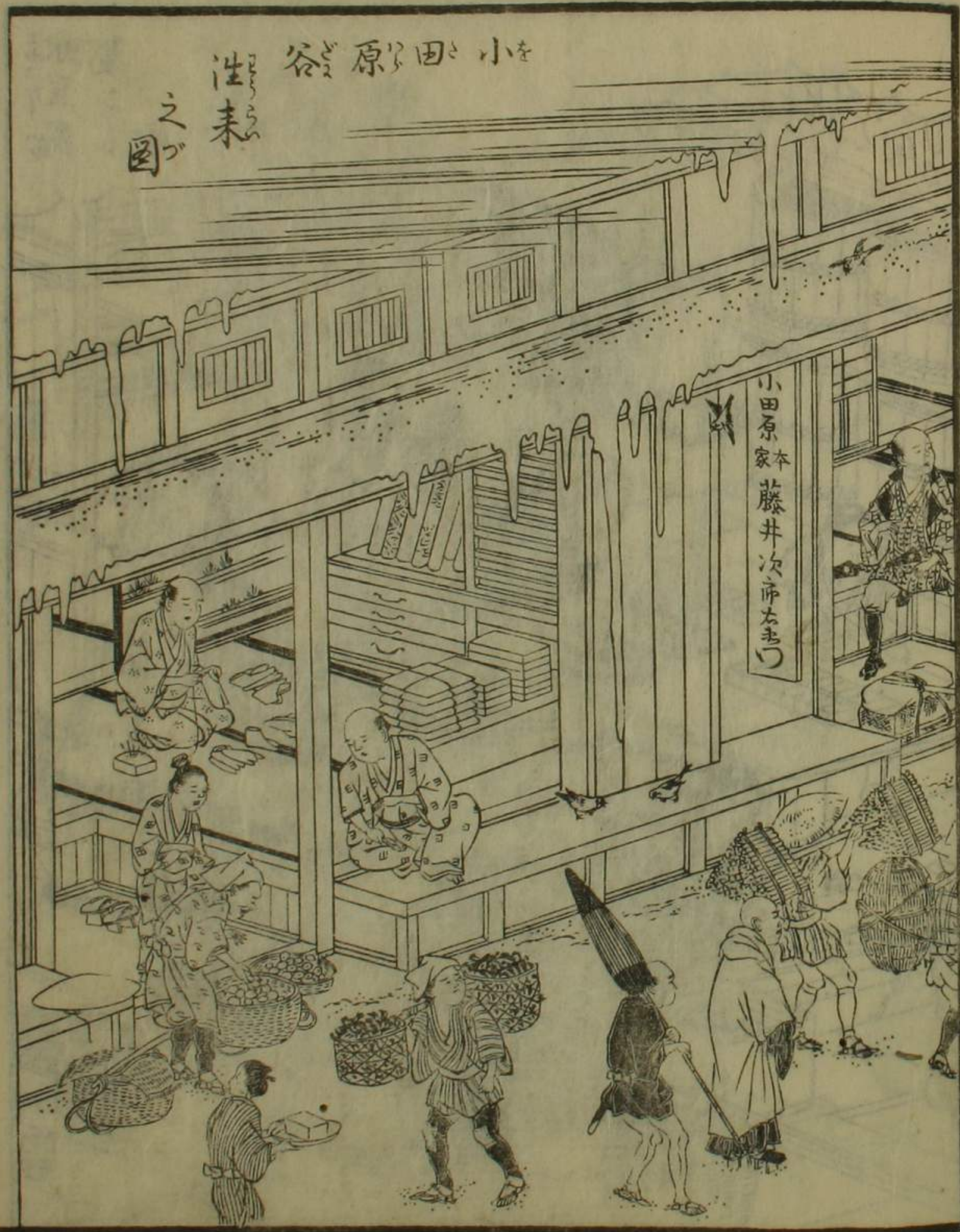
右衛門督通親

守覚法親王

頓河法師

逍遙院内府

小田原谷之末
之末
之末





一轉淮南
三冬製初調
棚頭凝瑤瑤
爐上躍瓊瑤
潔白高人操
方正君子標
笠山稱佳品
寄贈供厨料
巨鹿野人題



氷豆腐
製
對山
圖

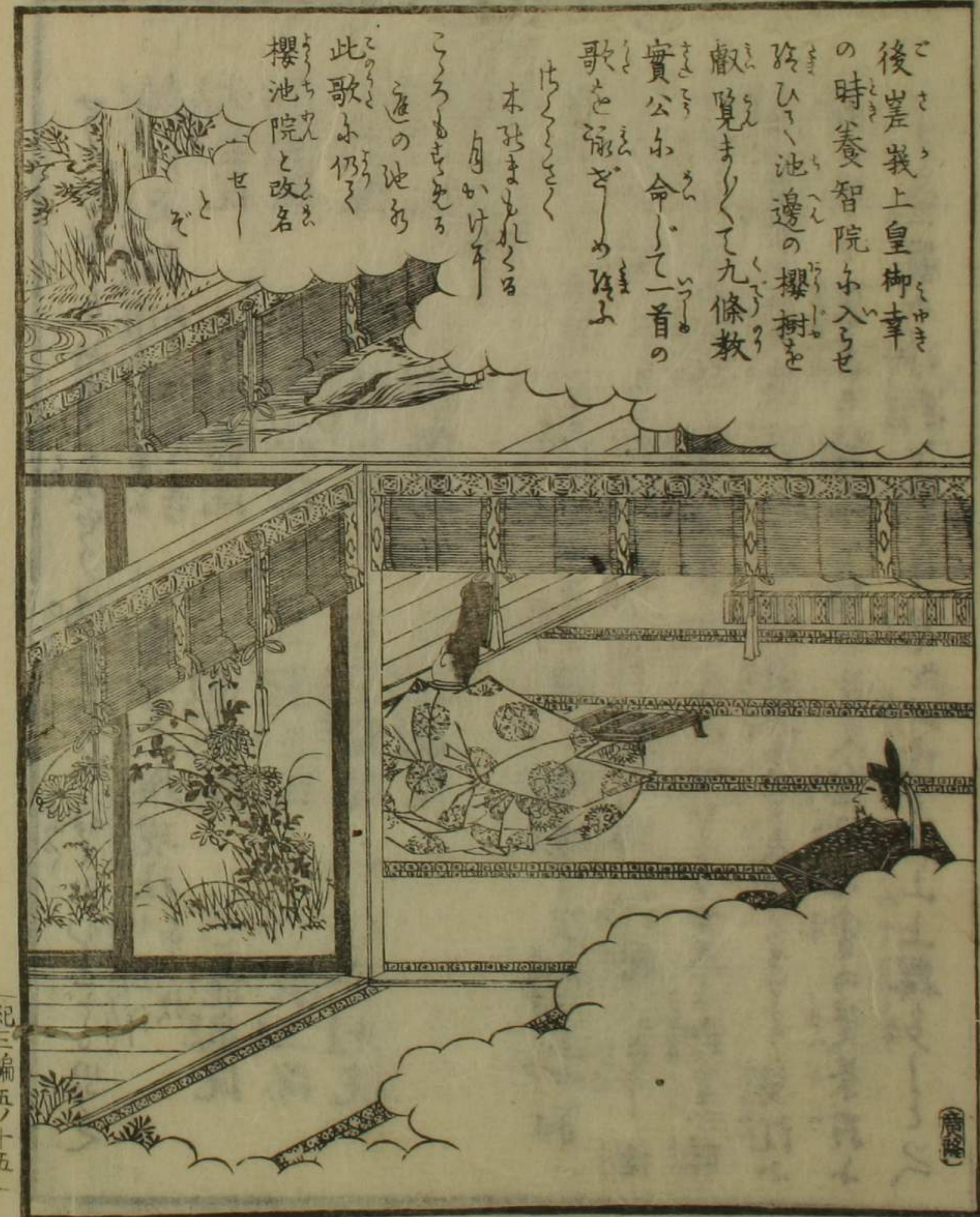
- 五智院
- 西禪院
- 彌勒院
- 金照院
- 愛染院
- 吉祥院
- 梅雲院
- 淨生院
- 如意輪寺
- 檀契 足利家
- 報恩院
- 淨照院
- 正覺院
- 檀契 土州彦西尾彦
- 源光院
- 阿彌陀院
- 密門院
- 大光院
- 寶藏院
- 增長院
- 善福院
- 智性院
- 地藏院
- 正塔院
- 修學院
- 蓮明院
- 功德聚院
- 寶龜院
- 無量光院
- 花藏院
- 清集院
- 阿舍院
- 影現院
- 蓮上院
- 櫻池院
- 喜連川家
- 聖善院
- 大聖院
- 自性院
- 大湯屋

古く大門の傍にあり先徳の忌日あり大衆及諸人とて沐浴

- 天龍院
- 延壽院
- 蓮金院
- 龍泉院
- 南室院
- 九品院
- 染玉院
- 教王院
- 心蓮院
- 殊勝院
- 三藏院
- 昌光院
- 善光院
- 青雲院
- 法泉院

壇場

西麓谷より
 東塔より西塔に至る二町の距離に壇場とて山上山下第一
 の大伽藍なり其の地峰も芙蓉と表し路の阿鏡小中事緒
 伽藍拜禮の巡路も梵書の阿字の形なりがゆゑに即是胎
 花叢會の曼荼羅や〜花を曼と表すこゝより奥院小
 密巖の淨刹と顯す是を西壇とて山上櫻多〜とて



後嵯峨上皇御幸
 の時養智院ふ入らせ
 聆ひて池邊の櫻樹を
 歎覽まりて九條教
 實公ふ命じて一首の
 歌を詠ぞめぬふ
 けりて
 本歌まもれり
 月かげ
 こころもさる
 庭の池あり
 此歌ふ仍
 櫻池院と改名
 せ
 ぞ

監獲——州創——同年九月廿七日初結縁灌頂と修行

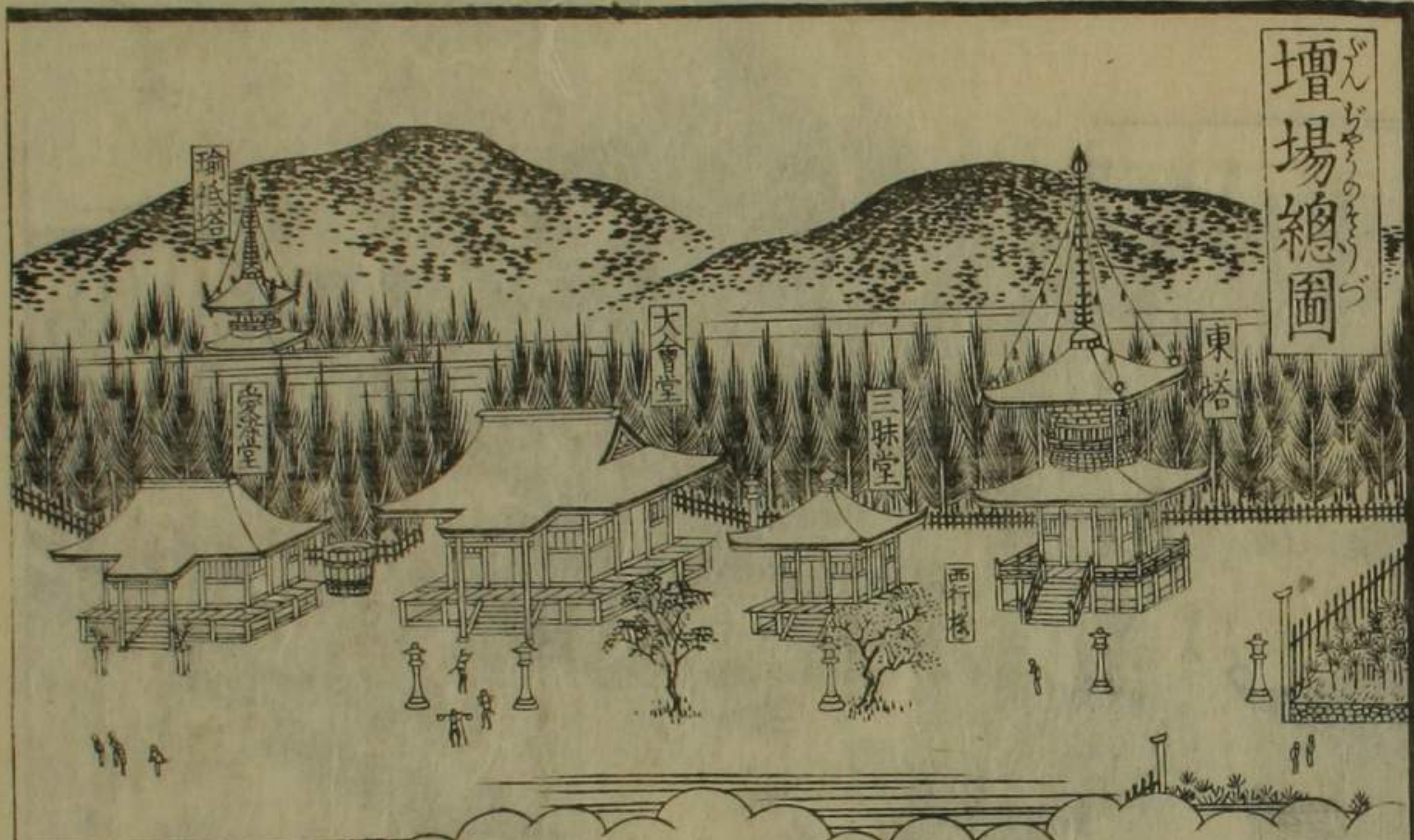
續門集

灌頂とがくらの非冒地難得遇此教難やとて大師の

かみ平らむらむらきとて人々のゆきの法ふあやとて
 法印隆勝
 法印道惠

○御影堂

此堂へ大師御在世の時實惠大徳建立し大師性時持念
 の御筆やして即大師自眼睛と点しなす人是を御奉る
 のあふ御影堂とてふりり亦入定御座の覆床方六尺許
 兼み清薦今ふ是あり且内陣の曼荼羅の青竜寺亦相
 兼外陣の紫金臺寺亦室の御深筆東側北燈へ祈親上人
 是と点し西側の燈も泰も 白河帝の御手自挑け



壇場總圖

拜金堂

一休

六時不断稱名聲萬嶺松濤洗夢清
 衆病盡除藥王力山中淨侶自長生

宋本

大塔夕陽
 突兀層樓挿半空碧丹八面下生風
 室相五佛光々映遠送夕陽影百弓

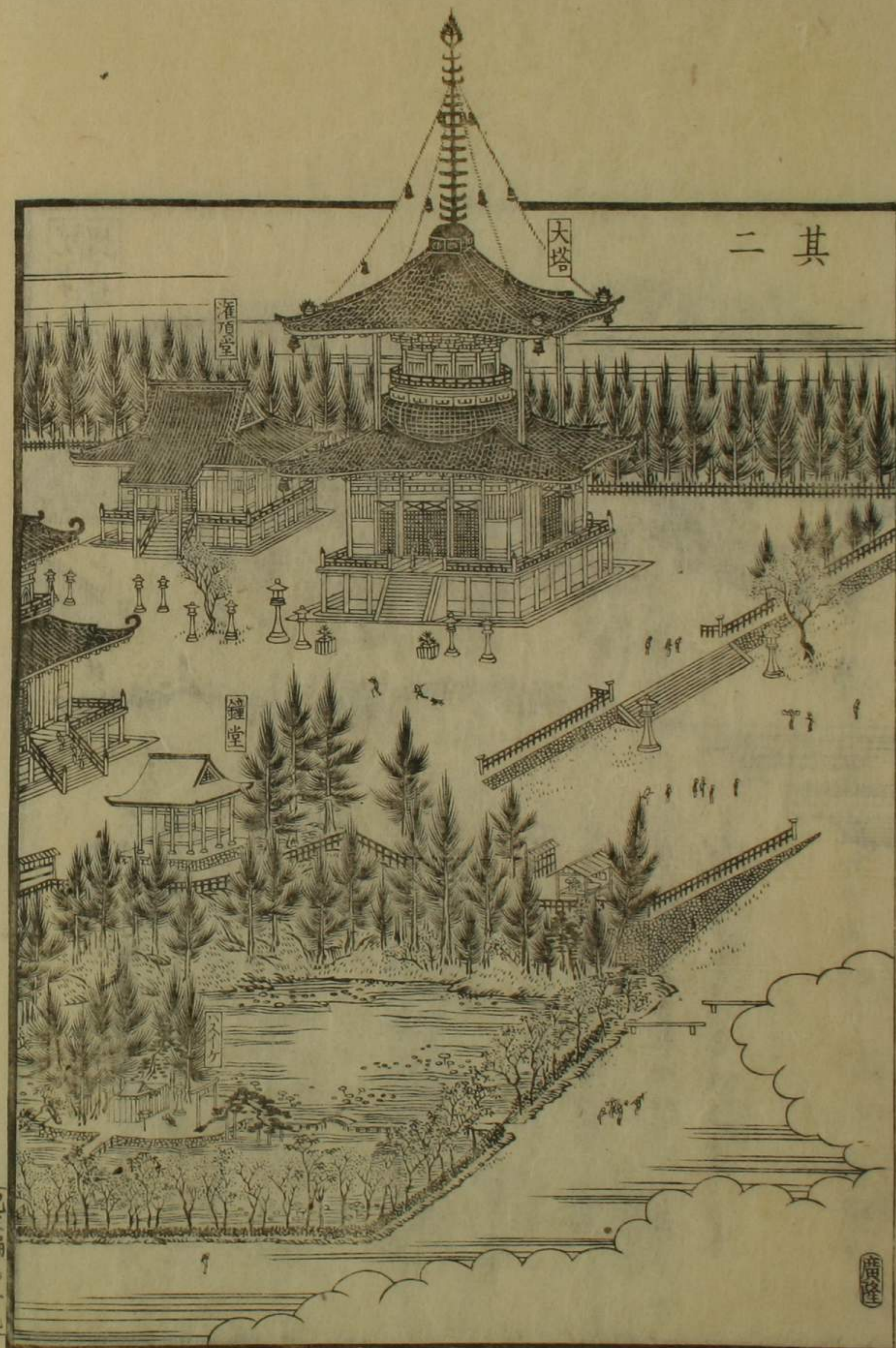
澤庵

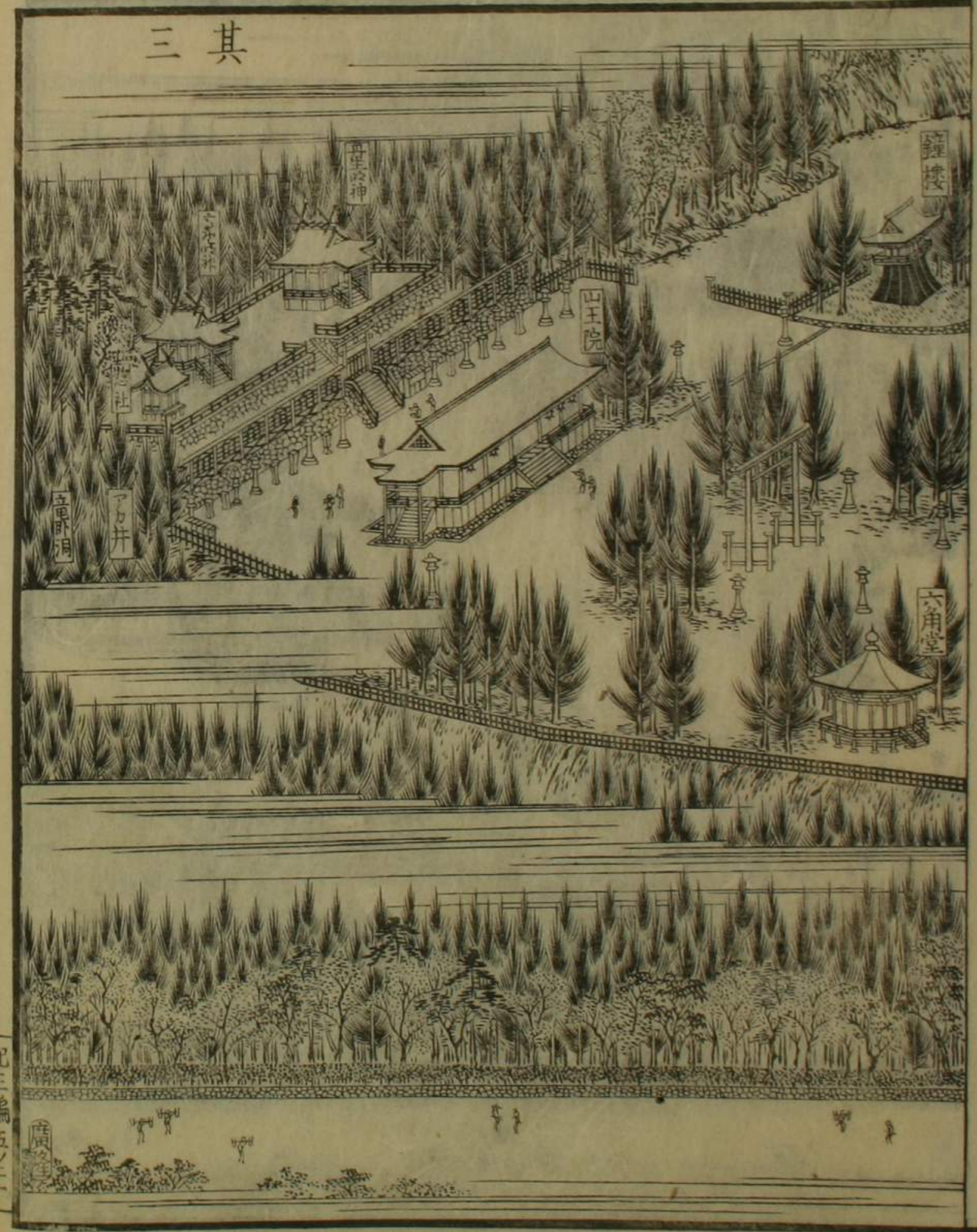
三鉢松
 千年清操聳雲衢三鉢松蟠其勢殊
 枝上徘徊深夜月老竜吐出團珠

心圓法師

正三位知家
 心圓法師
 正三位知家

あつたてやうとあつたてやう





三其

所かり堂後の宝庫あり大師御所持の飛行の三鈷佛持
 乃ひ入唐御清來の密具御真蹟御手印の縁起 倫旨院
 宣御教書大臣以下諸名家高僧の墨迹ふりりて蔵せり

左辨官下ニ 金剛峯寺

應早致祈請消盜失口舌兵革難

右得彼寺所司等去四月十五日解狀備言上末寺傳法
 院鐘并佛及大塔西堂諸堂御佛等皆悉生汗今月十四
 日已時傳法院鐘生汗因茲奉聞見同院御佛又以生汗
 相次大塔西塔并諸佛等及弟瞻作之處同以生汗給者
 令陰陽寮占申之處理運之上恠所非有盜失事送異離
 方奏口舌兵革事致期恠日以後卅日内來九月十一月
 明年二月節中並甲乙日也云云

保元二年五月廿五日

少辨源朝臣

大史小槻宿祢

社行多僧及國大臣等之為野山社之社記り之新
由東供養言計自達日之法以取之何 寧下之方
之之社之平之のし由下し之のし何事得也至
之のし何のし社之のし何事得也至

七日申

社行多僧

院廳

請諷誦事

三山坐衆僧申布施三結

右忽於高野山始修而部大法專令四海安穩恒満

細三編五王

所被仰下復備後國

神人先達不狼藉才

奉自松石知子細給



仙院御願曰茲叩九乳之息鐘驚兩足之誓王作請紺頂
成就丹祈乃至法吏利益不限仍請諷誦如件敬白
壽永二年九月二日正二位行權中納言民部卿藤原成範奉

下文より今以て所記の紙

熊野と云物後

為之謹言

六月廿日 法下湛塔

此の真熊野別當法隆が自存のやうな頗る神ありきもの物ふ
あつたものと云ふは是れ全文長はこれに有るやうに思印を押ししめる
を種々當に此印のやうに四編するものなり

橋山人

紀三編五之五

敬白 卒願事

右今度入洛無相違者當山舊領事可有
其沙汰仍立願如件

元弘三年五月十五日

尊邦殿

山僧傳了尊邦は大塔宮護良親王の一名として今諸書と考つた小護
良親王と尊邦と中奉とと載せと且諸皇子と尊邦と二名や
去つたも護良の草名と載つた形状相似り且元弘三年閏二月親王吉野
と出高野に入らるやうな尊邦と名のりたるや花押載既
此事を記すものと今全文と載する序に再記す

新院設有入御堂山之處衆徒依テ支申無其儀之
由注進之条殊以神妙向後於御方致忠節有祈

禱之精誠者殊可令與隆堂山狀如件

建武四年正月四日 尊氏判

高野山衆徒中

敬白 五願事

- 一天野社就華跡本地可奉甚深法樂事
- 一行幸高野山可與密宗事
- 一為當山佛法紹隆與寺領可寄田地事
- 右條々天下靜謐之時可早遂之狀如件

延元々年十二月廿九日 天子尊治敬白

此震簡小き紙書をせり包紙小吉野御座居より御願えたり天子の二字震簡
 小との例ありて安守此年尊氏光明帝と立て 後醍醐天皇と私に廢帝と稱す
 此時ふありて世人ありて此帝の天皇なりと云ふるありのあり故に此二字と書させ
 うつるなりて御世のあらさかきと云ふ

敬白 發願事

右今度之雌雄如思者殊可致報賽之誠之狀如件

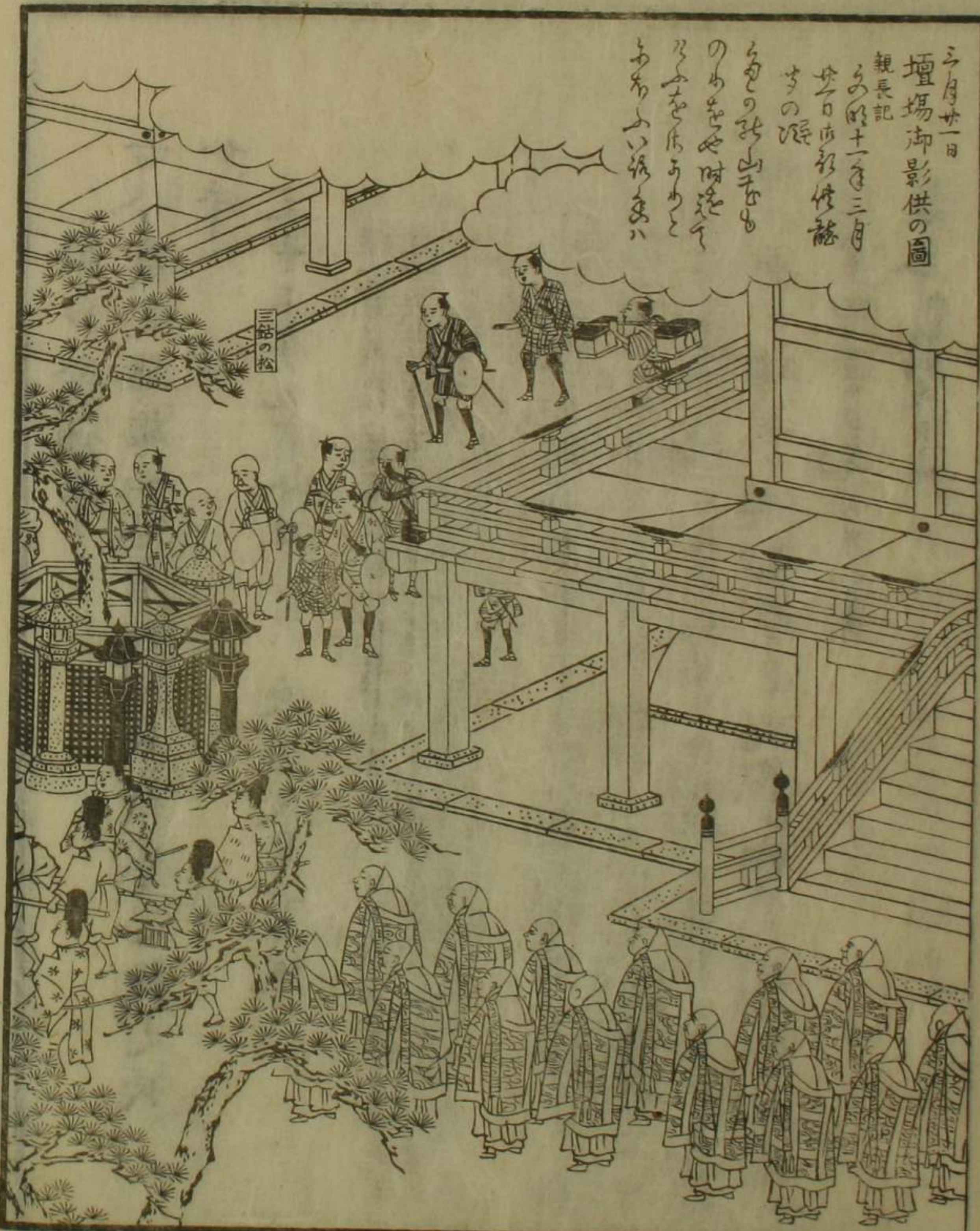
元中二年九月十日 太上天皇寬成

按小寬成王は後龜山帝の同腹に御弟なましくて正平廿三年東宮ふち
 ち天授の末辭して太上天皇と稱せしむる後紀及玉河の山中に御座居
 あり玉川宮と号すといふ本國小玉川とて郷名なり所謂高野の興
 の玉川のついでに東の山村にあり

○三結松 御影堂の 大師御帰朝のときかの唐土明州の津に密

教相應の地に留まると誓ひて投げしめる三結松を路に沖
 々里の滄波を飛らるる終ふまの松梢に留まるとかの狩場
 明神の登る樹上は瑞氣ありて山谷に映ずと曰ふは彼杵の
 云のまふかきなるなりとぞ

敬奉 高野山



三月廿一日
 壇場御影供の圖
 親長記
 癸卯十一月三日
 女日御影供
 すのぼり
 らむり山
 のあき
 らむり山
 のあき

大師遺宝金銅三古一杖

右大師御入唐之時於彼國向吾朝誓約而投所持三鉢則屆當山留松上所謂示佛法可流布之勝地而已貴重也揭焉也小僧以去貞永元年辰十月十四日傳得件三鉢昔雖容身於北嶺今還結緣於南山誠是非小之往緣歟大師云我在天竺号勝鬘夫人於陳朝稱惠思禪師來日本名上宮太子云思禪師者天台高祖也我等定有因緣歟每憶前世值遇悲喜共催光淚耳今相傳大師遺宝以來今年廿二箇年今生感應頗為足身頻嬰老病志只在來緣仍件三鉢一枚謹所奉返納本山也庶幾旦為全佛子之勝緣且為重大師之法物永奉納御影堂之後縱雖有權門勢家之嚴命堅慎堅誠勿取出堂外若有背此旨人者奉始大師聖靈之所明神至于山上山下護法

天等_ニ豆_ヲ加_シ冥_ノ罰_ヲ於_シ其人_ニ令_テ與_ハ災_ノ禍_ヲ於_シ其身_ニ也仍_テ湛_ノ空_ノ勤_ノ狀_ヲ敬_テ白_ス

建長五年癸丑七月五日

金剛佛子湛空
奉送使者
上願
信覺

斂_ハ落_ッ大_ノ滝_ノ峯_ニ并_ニ懸_ル高_ノ野_ノ松_ヲ早_ク天_ノ霖_ノ雨_ニ足_リ瓶_ノ外_ニ有_リ真_ノ龍_一

東福寺虎閑

生_レ因_レ已_ニ熟_シ至_リ都_ノ寧_ニ手_ノ裏_ニ金_ノ剛_ノ飛_テ放_ツ光_ヲ瑞_ノ氣_尚殘_リ野_ノ山_ノ寺_一一
株_ノ松_ノ籟_ノ響_ヲ扶_ツ桑_一

大德寺一休

終南師遺稿

遙_ニ拋_テ法_ノ器_ヲ試_シ靈_ノ蹤_ヲ三_ニ鉢_ノ高_ノ懸_テ尚_ク有_リ松_ノ已_ニ聽_ク溪_ノ泉_ノ鳴_ク玉_ノ韻_ヲ還_テ
瞻_ル天_ノ女_ノ現_ル山_ノ空_ニ燈_ノ燃_テ萬_ノ盞_ヲ長_ク時_ノ煥_カ及_テ雨_ノ千_ノ花_ヲ不_レ斷_ル濃_一自_レ
法_ノ身_ノ歸_テ寂_ニ定_ス龍_ノ華_ノ勝_ノ會_ニ願_テ相_ニ逢_フ

十八景

三股怪松

雲石堂宗本

一株松茂影堂前。昔日飛來金拵懸。仰見繞嘆人拜去。清風蕭瑟暮雲天。

風雅

こもやまのりくこ一松ふりつてあつておす松のりく

阿一上人

雪玉

謾吟集

今もまらまらつてやらんをせふもあひうりうり

内倉実隆公

契 冲

鐘樓

俗語

け鐘室九千九百八十一斤廿一兩一白湯一千九百六十一兩二

ふとゆき誘ふあかり性霊集よふふ原の大師の薄造一松
ふ所なりを大永元年の火お焼亡せし惜むべし今をうり
天文十六年小薄造寸銘よ高野山金剛峯寺本願満寺衆
僧各敬白とあり

性霊集

金剛峯寺鐘智識文

應鑄造鐘事

夫捷槌一打三十之衆雲集霜鐘三振四生之苦氷銷故
能罽尼免刀輪獄率休護湯長眠聞之而驚覺永夜因之
忽曉八部所以駢填三尊所以輻湊般若之標道場之主
只在鳴鐘平然今金剛峯寺堂舎幽寂尊容滿堂禪客溢
房鴻鐘未造今思奉為四恩鑄造七尺銅鐘雖然道人清
乏有志無力伏乞有緣道俗各涓塵相濟斯願生々吐如
來之梵響世々脱衆生之苦聲今不任至願謹奉勸

後夜緩鐘

雲石堂宗本

十八景

華鐘高架法場中制是梵同聲日東百八緩撞深夜月三

庭曉遠宋寥空

新十

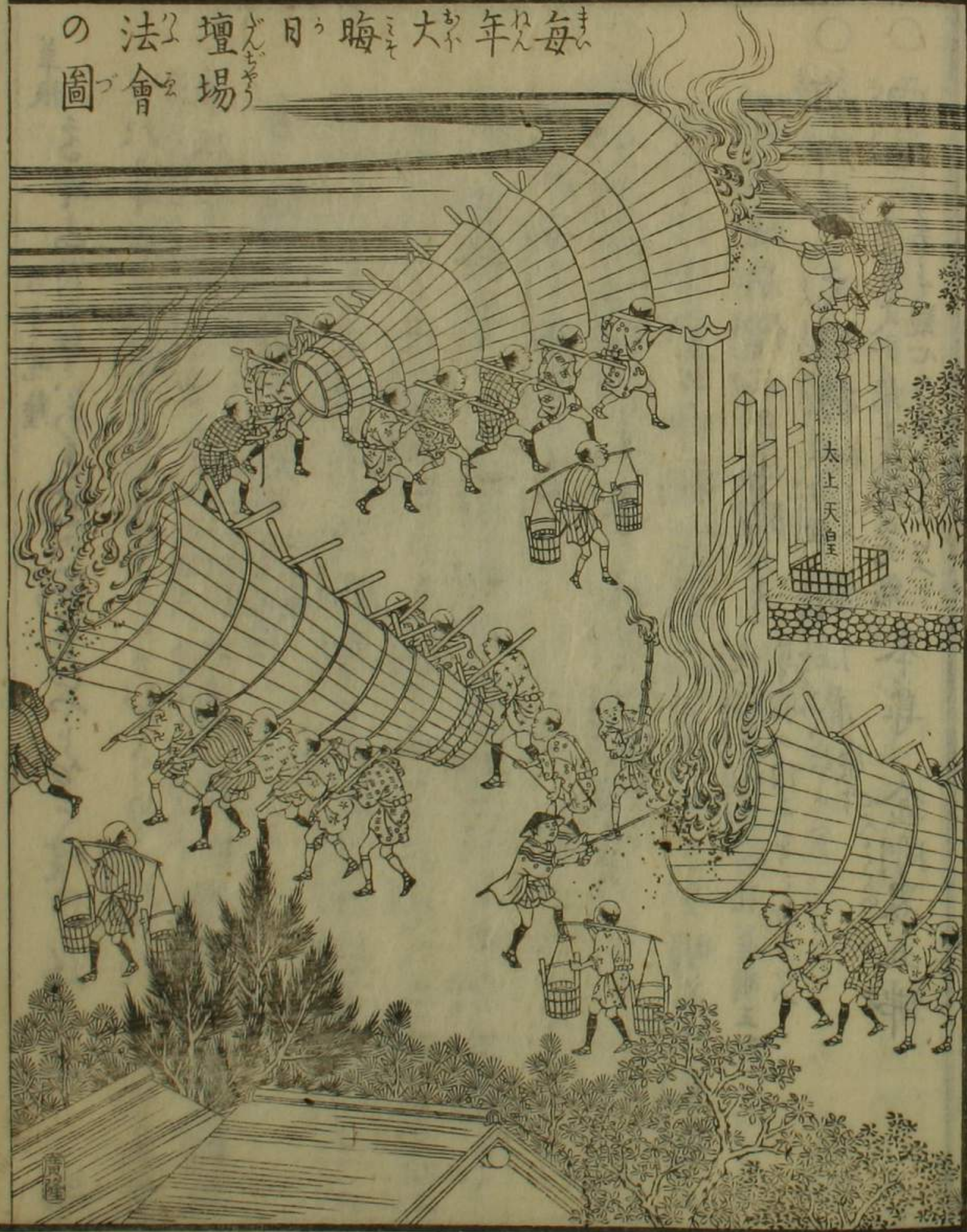
鐘の音ちあけぬと空をこるゆふかゆるるあつ曉の音

中教卿宗尊親王

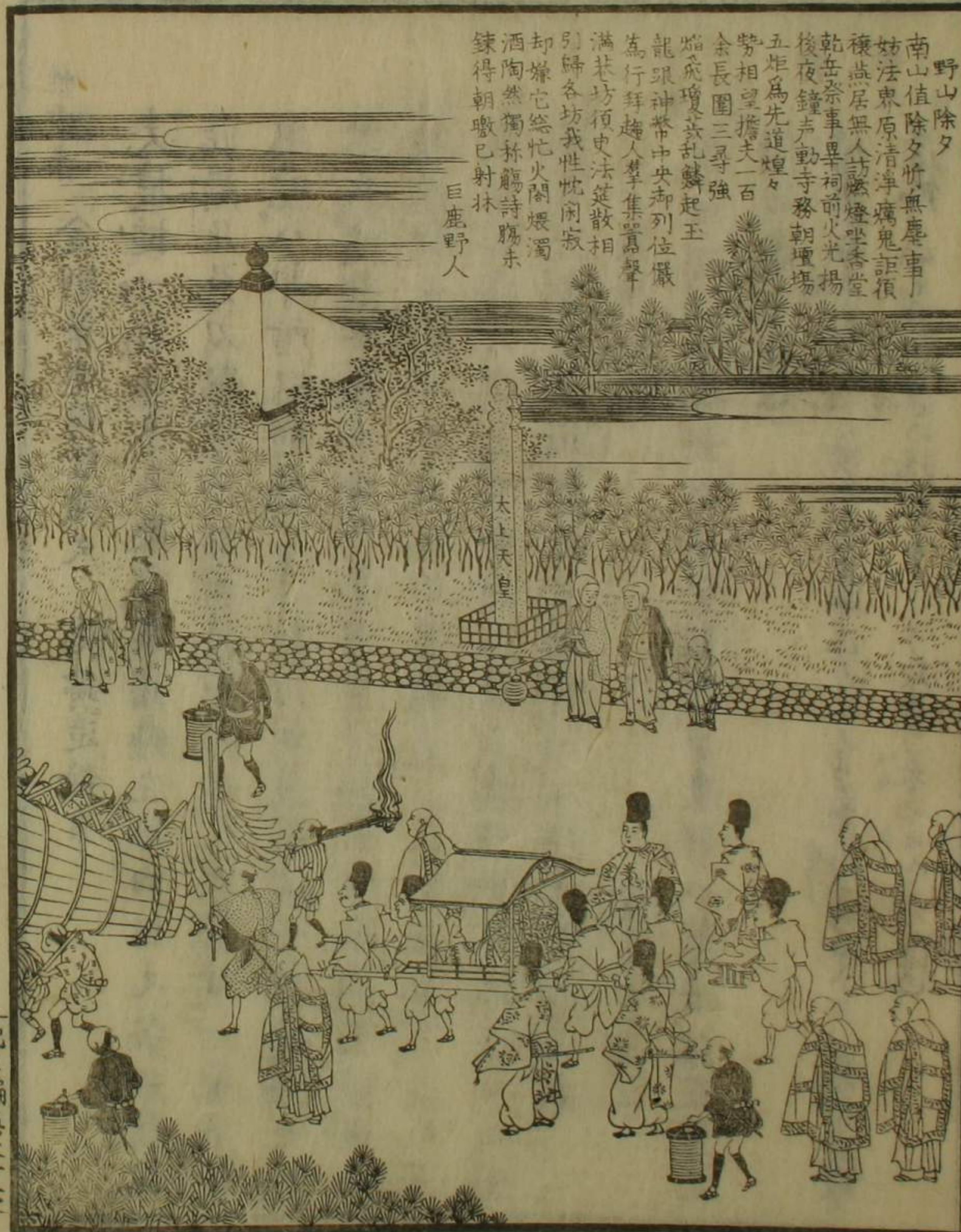
拍玉

ふる脚ふまわつきの撞はるりりりせの音やせんよめてま

毎年の大晦日壇場法會の圖



野山除夕
南山值除夕竹無塵事
妨法東原清淨癘鬼詎復
穢燕居無人訪燈燈坐香堂
乾在祭事畢祠前火光揚
後夜鐘去動寺務朝壇場
五炬為先道煌々
勢相望擔夫一百
余長圍三尋強
焰飛瓊蕊亂舞起玉
龍跟神帝中央却列位嚴
為行拜趨人羣集響聲
滿莽坊復史法筵散相
別歸各坊我性忱閑寂
却嫌它終忙火闌煖濁
酒陶然獨鉢鷄詩賜未
鍊得朝噉已射林
巨鹿野人



草根

古寺曉鐘

るゆ山月... 正 徹

○ 準胝堂

西影堂の西あり又... 本尊 準胝觀音 如意輪觀

音 彌勒尊

並み四天王 共み大伴

○ 小松天皇の御願

彌勒尊と安次準胝觀音の食堂慶

○ 寺小因

雅真檢校より移し出家剃度の本尊とす故ふ

○ 寺小準胝堂

とす如意輪觀音の應徳年中念誦堂より

○ 寺小安

奉り奉り

○ 孔雀堂

準胝堂の本尊 孔雀明王 長三尺

○ 後鳥羽法皇の御願

因り創りし所なり明王の尊像ハ

○ 長者延果僧正の手彫

後行者所製の孔雀明王と

○ 新御塔

文殊樓 新經藏 共み今

○ 西塔

九丈即衆生本有の九歳 本尊 金剛界五佛

紀三編五二八

光孝天皇の御願... 大師の素願と... 眞然僧正の

創りし所なり數百年を... 破壊ふ及ひ... 鳥羽

院御幸あり... 院宣となり... 下さ... 大治二年十一月四日か

御幸あり... 落慶供養の法會を修り

○ 丹生大明神

本地胎藏叟大日 高野大明神 本社總社と勧清して關山の

十二王子百二十拜殿 山王院と... 年中社... 大鳥井 ぬぬの

弘仁十年五月三日大師... 本社總社と勧清して關山の

鎮守と... 給ふ... 此總社小摩利支天と加へあると

り... 祈親上人當山の荒れ... 歎きて當社に祈會せし

明神夢ふ... 致風雅集に載り

僧鏡阿謹

寄進

金剛峯寺漢守天野宮八講理趣三昧並
神事等用途本事

合拾叁解者

但十解者於彼御室前可勤仕八講理趣三昧
供料本也三解者御供神事雜要本也

右奉寄進意趣者先年之比天下大乱貴賤愁歎渚州逆
乱万民滅亡聞是思是逼肝碎心何助此何救此只非佛
神效驗者以何止此苦因茲内心發大願其大願有二種
一者於高野山根本大塔修長日不斷兩界行法遙續龍
花三會之曉二者於再生權現御前勤行八講理趣三昧
遠期慈氏下生之時然則互奉祈請太師明神願令奏聞
太上法皇之處忝達御慮己所被宣下明白也爰文
治三年五月一日左衛門權佐平朝臣棟範於御使已被
始行法其用途料以備後國大田御庄所令御寄進也是
則非太師御加護明神御靈驗乎依之弥為興隆太師之

紀三編五ノ九

教法為祈請行法之不退彼御庄所當米拾叁斛所令寄
進佛神事用途料也其處者雖異理趣者一者彼此同續
慈尊之下生即無其中間有退轉令勤行一箇佛神事等
錢阿敬白

和勝元年六月廿五日



僧錢阿

某云錢阿の法花坊と号す足利義兼朝臣の法名なり異年号尤多しと云と
和勝の文字他に見つるものあり文中天授八條理趣三昧并神事等用途本の
と記すは平文治年間此文書より守建久五年七月の文也夫天授八講理趣三
昧配當とすは守建久の事なり是守建久の末より守建久の事なり守建久の
と云ふ今按守建久改元の事和勝と改むと云ふ言なり守建久の事なり守建久
てかまはるる守建久の事なり守建久の事なり守建久の事なり守建久の事なり
間の事なり守建久の事なり守建久の事なり守建久の事なり守建久の事なり
被織仰元号泰平とありとも思ひ入るなり

十八景
玉殿崢嶸風色賒朱離華表石階斜松杉深處人來往

雲石堂宗本

○三昧堂 本尊 金剛毘盧大日如來 細像五百斤余

延長七年當山六岳の座主濟高建立の会誦三昧堂なり

康和三年初供僧三口を置り 今至五智増補見證の三階りともを管す

○西行櫻舊跡 三昧堂前より西行の

山家集 三昧堂の多しをみるに社の年うらめしう
行のさるさるをみるにそとをみるにさるさるをみるに

○東塔 本尊 尊勝佛頂 不動 降三世 西行上人

○蓮池 壇場の南東の方あり池中あり赤白の草を生ず中央は善女電王の

本尊 今三昧堂のありしをみるに池乃蓮系 拾栗山人

○南谷 壇場の異方注還の 本尊 金剛毘盧大日如來

○鐘樓 宝庫 敕使門 西面 築地 前坪 庵室

此院小於々毎年八月廿一日より十日の間學子業を試ひま

そおま日河講あり神法樂は備多と學道とて都てそ

儀嚴重かりて間一山の諸普清鳴物も堅くおすこの飛

山中は小才とて擇びて廿人とまわし着座し終るとき配

闍の僧二十箇の闍を以て列衆を採りてめ是小中者

講師とす即竜猛大士無畏三藏乃ひ大師制の論疏

手都々二十五卷の中毎年一卷を暗誦講演す講終て

後満座論議あり例せば儒門の人進士小拳せしむ

のら才小依官階小昇のが如く去の勸學會の新衆を

勤の畢る人衆の名をて後才罷小随て大判を領し初

學と教示すは文禄年中 神君御登山のとき

此會のものと具ふ 聞るる往昔天平延暦の頃 勅有て

明王院如法上人名
 を懐慕いひて治
 聞博識又安元年
 四月十日都亭天
 昇つて後ふき弟子
 飯徒存食を調
 居り其徒徒ひく
 上天まて飯口を
 落しけり其怨を
 松子の芝といひて今
 に壇場いひて



紀三編五十二

本尊
 の因縁
 海士郡
 塩焼
 地蔵
 の
 條下
 委



紀三編五ノ三十三

定めしき度科及身の旧風唯この山よ妙なるりの丸珠
 勝の... 抑去の院會々建久年中右大
 将頼朝卿衆徒学業勸勵のめ草創り又弘安の頃
 北條相摸守時宗去の會の嚴重精密なるを適其秋
 田城介恭盛... 此院を造営せしむ又文保二年 後宇
 多法皇院宣を賜ひ肥後國岡牟田庄を寄附し...
 初願所... 後醍醐天皇建武二年... 弥惠学を励ます
 づ... 綸旨と下され且講師の名を祀... 後代に...

- 遍照尊院 檀契 津輕越
- 金生院 中疾
- 眞珠院 浄菩提院
- 水壽院 加納院
- 遍照ヶ峯 壇場の南
- 覺城院
- 明眼院
- 浄眼院

八葉の一やそ世俗覺海山とて峯中ノ學海尊師の祠並り
 看經所等あり覺海師も但馬國朝來郡の人なり曾々當
 山ノ草菴と結び自開敷花王と号し南方室部南勝の名
 と呼ぶ建保五年檢校小補終小修羅即舍那魔羅即
 法夷の覺悟を得俄然と大身小現し兩腋小羽翼を
 生じ直小大慮小向く飛去り永く當山の法護とせり
 時小貞應二年八月十七日春秋八十二歳なり師蓋し學德
 淵博や大ノ宗風と振起す云々今山上小於く不慮り
 危難小傳へその必尊師の宗とせりとて大ノ慈悲とせり
 沙石集天狗之人眞言教事の余小近ごろ多小ゆえし言師も天狗小
 早後大支の秘法と異付て弟子授りて智恵道心ありの如と
 出離すべしとせり

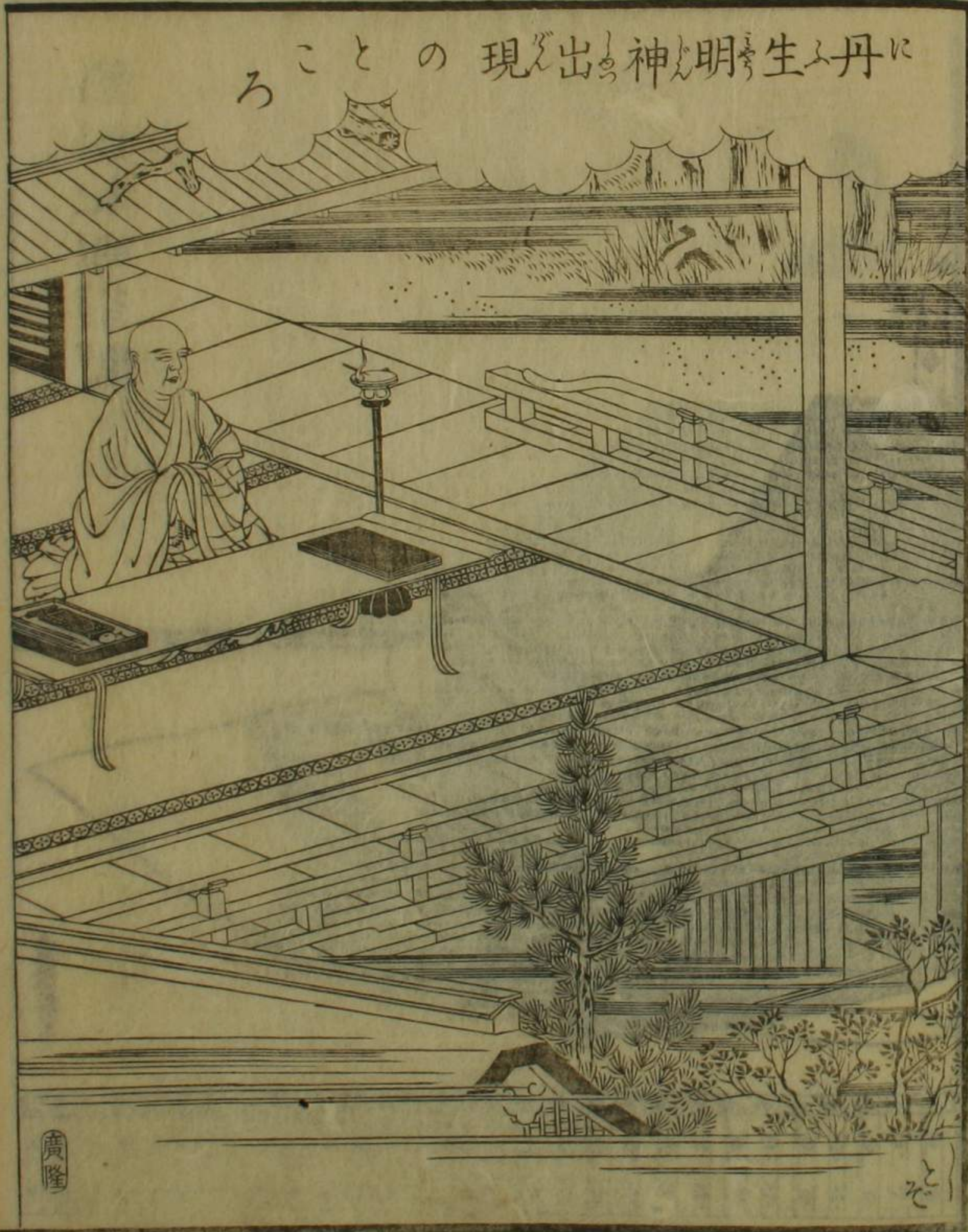
虎が峯 八葉の一やの遍照
 古の湯屋敷あり

地藏堂 本尊 地藏菩薩

本尊只大師の御作今小野宮皇御の製なり所の地藏尊と
 安置し即南谷六地藏の一なり 成蓮院十輪院 青雲院 花王院 最勝
 六地藏

○ 增福院	○ 東禪院	○ 西室院	○ 成蓮院
○ 證菩提院	○ 南院	檀契 石川日向侯	
○ 大衆院	檀契 前田大和侯	○ 證覺院	○ 龍照院
○ 花城院	○ 常衆院	○ 法林院	○ 如意珠院
○ 般若院	○ 不二院	○ 自性院	○ 青龍院
○ 明星院	○ 靈山院	○ 持宝院	
○ 悉地院	檀契 織田近江侯	織田丹後侯	織田大和侯
○ 心南院	松平壹岐侯	松平因幡侯	池田丹波侯
○ 楊柳院	冊羽長門侯	伊東播磨侯	松平美作侯
	檀契 戸次大和侯	六卿齋頭殿	本庄内藏助殿
	○ 最勝院	○ 三寶院	○ 花王院
			○ 補陀洛院

丹生明神の出る所の現るること



廣隆



室性院の宥快師ハ其廣徳天下の知る処ハ
 童猛の論無畏の疏高祖の制作悉述釈
 て鈔を以て其外著述數百卷ハ
 或時悉曇章を鈔述して深更に
 丹生津姫の神錦衣玉冠瓔珞珊
 々々手に魚腦の燈を提げ幽扉に
 入来つて法ハ暫問答ありて一首の御
 詠を以てり

室性院の法

宥快師答

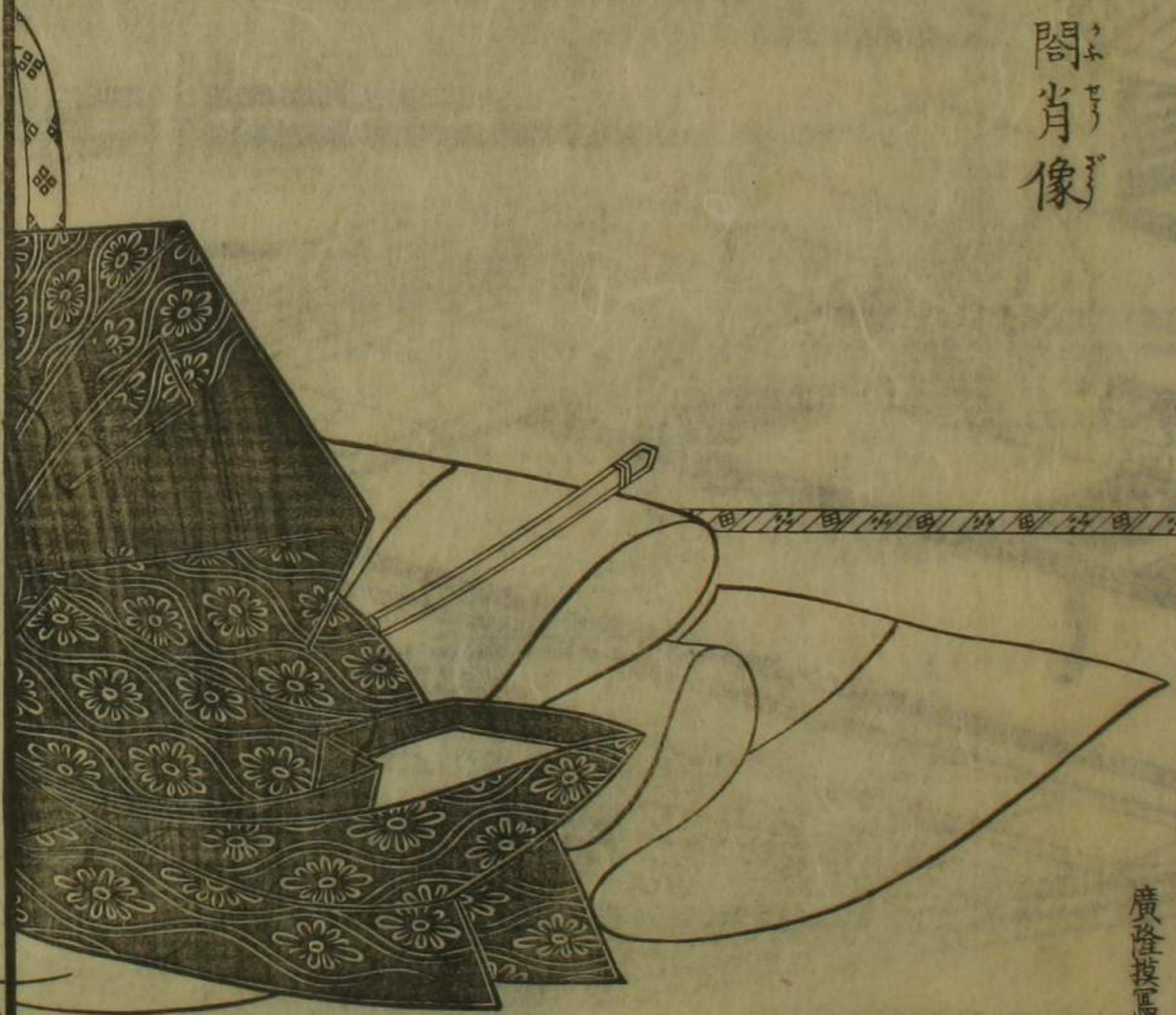
此の師ハ曉を以て
 身ハれどもや
 るを
 法のものハ
 神歡喜
 土

紀三編五ノ三十五

寶積院藏

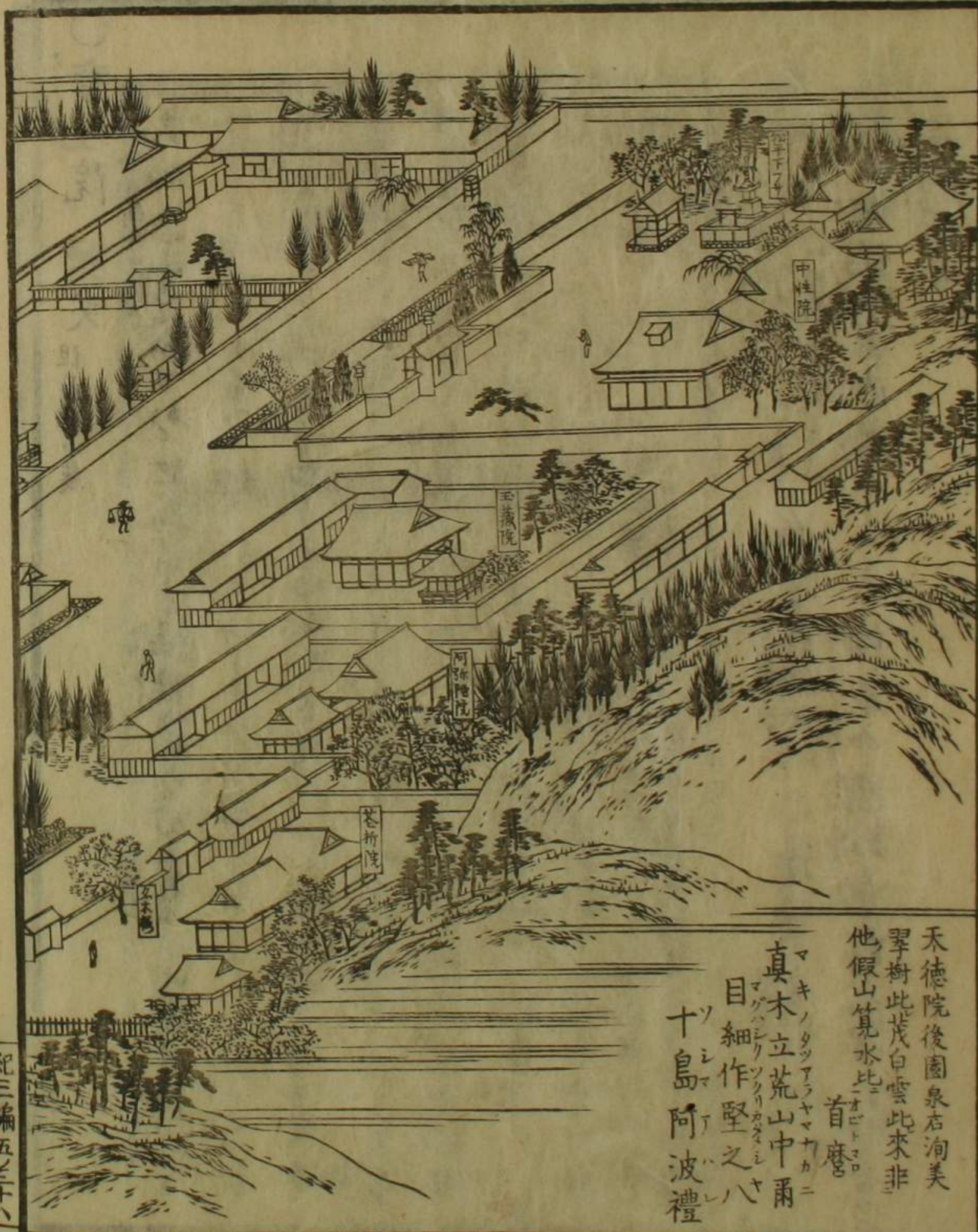
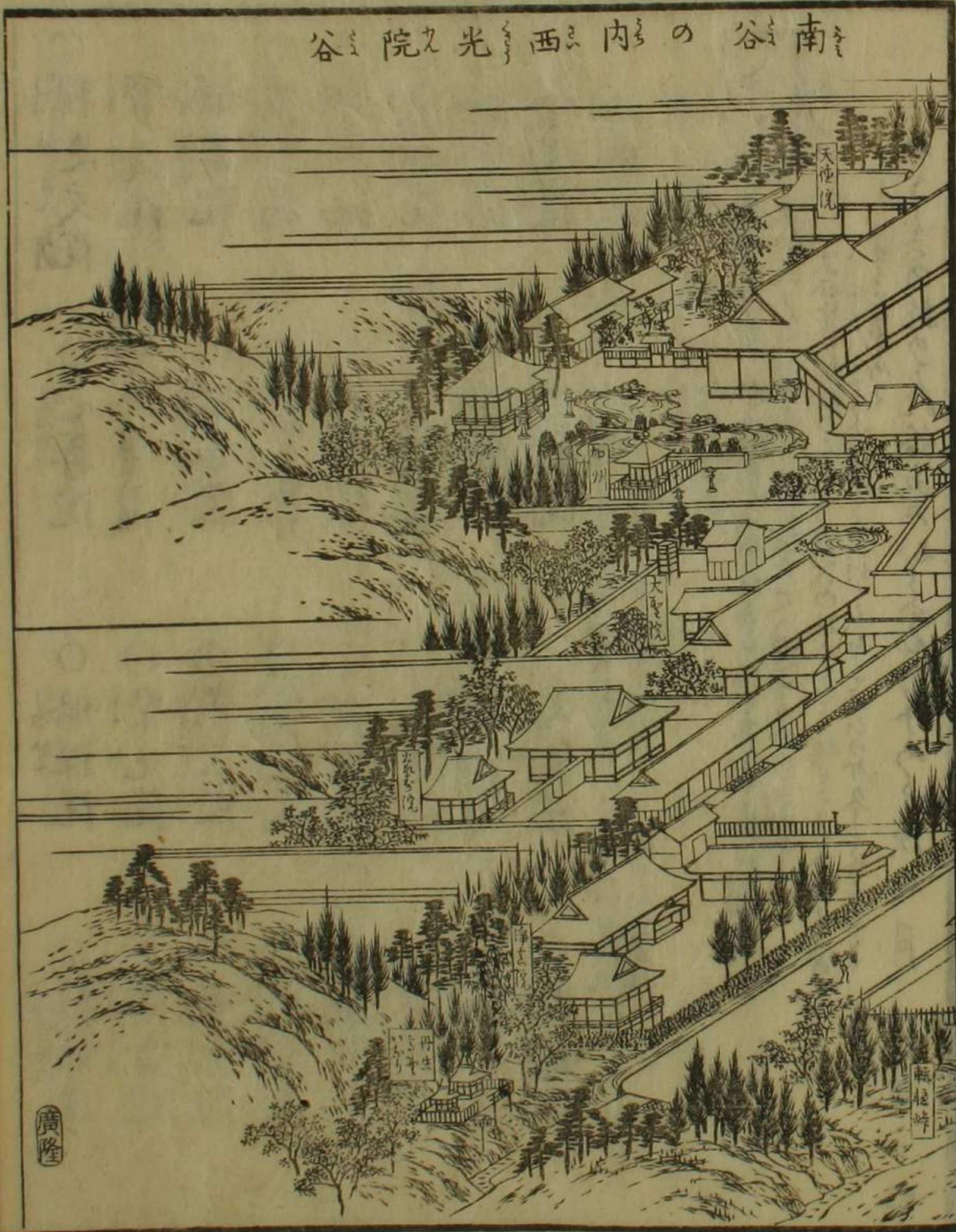


豐臣太閤肖像



廣隆模寫

南谷の内西光院谷



天徳院後園泉石洵美
翠樹此茂白雲此來非
他假山竹筧水此
首磨
マキノタツアラヤマナカニ
真木立荒山中雨
目細作堅之八
十島阿波禮

大瀧小つくと徳々四十八龍の称わり故小
 大の地と谷上とらふ

□ 大日堂 一ノ金剛心院と云大塔の本尊大日如來

○ 鐘樓 永正年間古鐘あり 東西二基塔礎東坂本

長元年間 後一條院御願ふ因創十所なり後天養

元年宇治入道忠實公御登山のとき再造を企つ五年と経く

久安四年内大臣頼長公御登山あつて即入道の御為ふ落慶

供養あり且額をかゞゞ金剛心院と号しとまふ

□ 嶽辨財天社 壇場の乾方十町

○ 拜殿 鳥井 東南西道内 金剛童子祠 荒神社

昔大師末世の福田のころ如意珠とよの峯と埋と宝瓶と

安並と天女と勸清と財福と乞ひうよそのら天狗妙音

房よの嶽と守護とらふ

無量壽院の
 深賞大僧の
 九條右府即輔
 公の甲斐の
 山のや専
 無量壽佛の
 三昧入て
 當院で早
 創十萬壽
 三年 帝御
 惱のとき加持
 即驗と現ま
 禁門出入



明算上人 大徳

後園の

池中に

小竜現

奉

宝珠を

其寺を

竜光

院と

名づ



本中院谷

壇場の良方小塔は住蓮のたふあつて小田原谷小つて富山の中心
根本祖師最初の所住する中院ありとて中院谷とて

山家集

同
とくちらやどふとる意痛とてふあやとやうづらうとて

あくねとくちのあやめのねもひとあまのりやうづらうとて武

○東南院

○大乘院

○正覚院

○總持院

○親王院

○乘截院

○相應院

○龍光院 又中院

□ 瑜祇塔

龍光院境内あり金剛峯寶樓閣
瑜祇塔と稱す又大塔と稱す

本尊 金剛叟大日

阿闍宝生 觀音 虚空藏 故云

此塔ハ大師御請來の圖とてつく真然僧正ハ授けりて

傳ハ大師の遺命と受てて貞觀年中創する処ありて五峯ハ

柱の楯四九三十六の操妙巧精絶殆鬼工のつく金剛峯寺

称号の權輿深秘大塔并ハ此塔あり四柱ハ九尊つく

八柱ハ八大菩薩及び八祖等並ハ皆僧正の入室會理

く本多の準膳堂より移すと又按ずる東坡詩曰身是雲
堂且過僧住小旅僧一宿之處曰且過とあり蓋御圖記
大炊屋といふ是なり

□ 荒神祠 奥山寺の門

大辨功徳天と相殿ふ安と大師この荒神と勸清一壇場
の鬼門と守護せり

○ 興山寺 本尊阿彌陀佛 惠心僧

○ 東照宮 奥山寺後の

御供所

一切経蔵

奥及秀衡同當山より寄附せり御供金泥の

一切経蔵

寛永五年

台命ふ因り造立し奉る

神像ハ日東御鎮

坐八幹の一

大佛師康猶の造りなり如御劔ハ堀川

國廣の作とや且御供料一百石を賜ふ

神宇拜殿

木の壯麗且年中の積祈念令等甚嚴密なりを地ち

真山寺昔小峙り眺望のわづら萬樹翠と凝し南
峰と繞り兩壇慶と並し西空小聳り春花秋月時と
て佳なり

○ 巡寺八幡宮

毎年二月七日及七月廿日
の夜神幸り奉る

大師産土の神として往昔の讚州多度郡白方村小法座

御旗及び御旗竿中差の御矢なりととての家古裏來

の神威小因り夷賊塵滅し後御旗海と涉り紀川

と所伊都郡山崎村涼の森れ松梢より

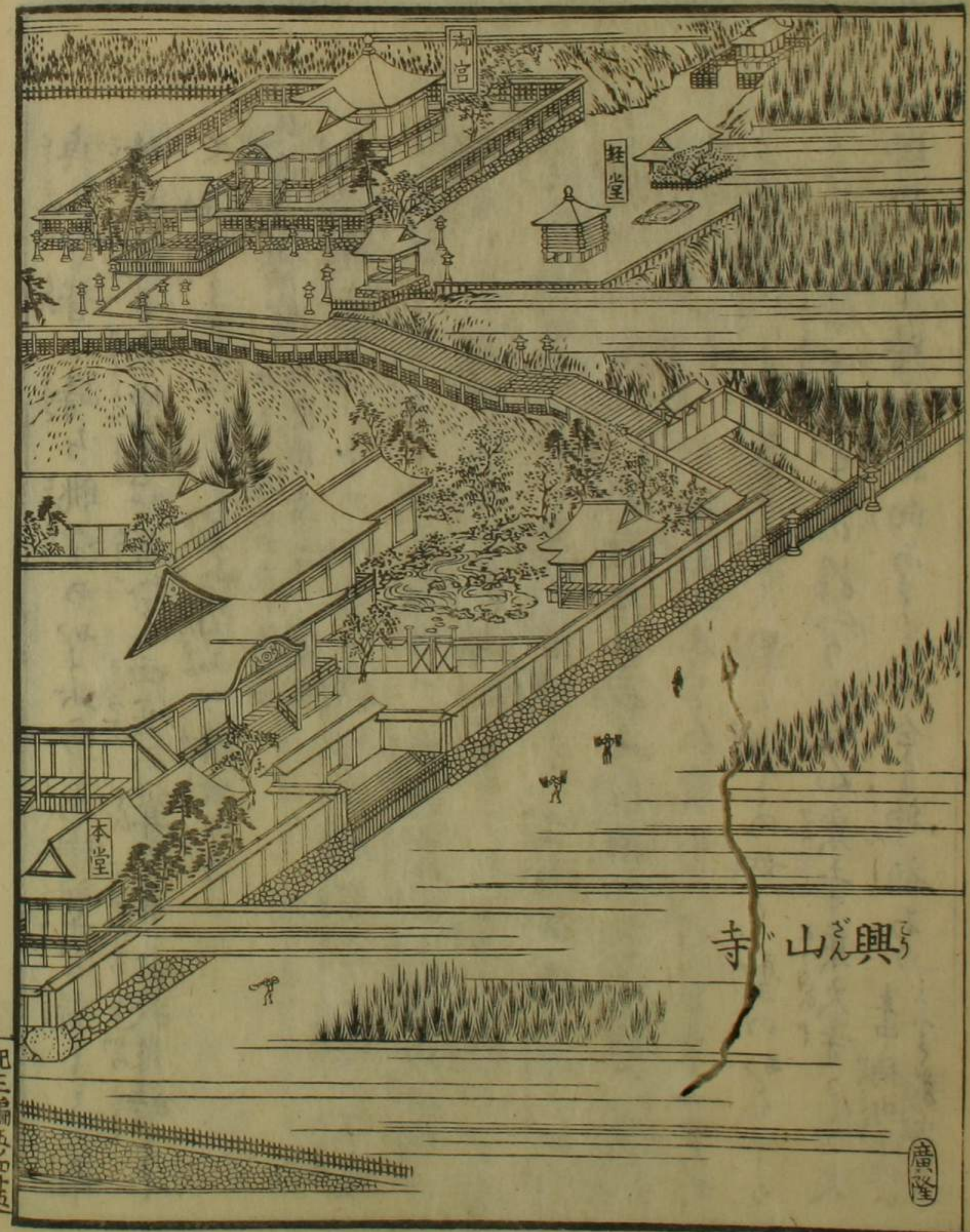
と今今郡兄弟村 即神勅ふと當山よ迎へ

と御誓約曰聖と吾と影と飛との如し聖の

と一の吾必行むとの終りとも東寺東大寺も大

師の在り時御影向あり今今神祠あり

年中精初法供の



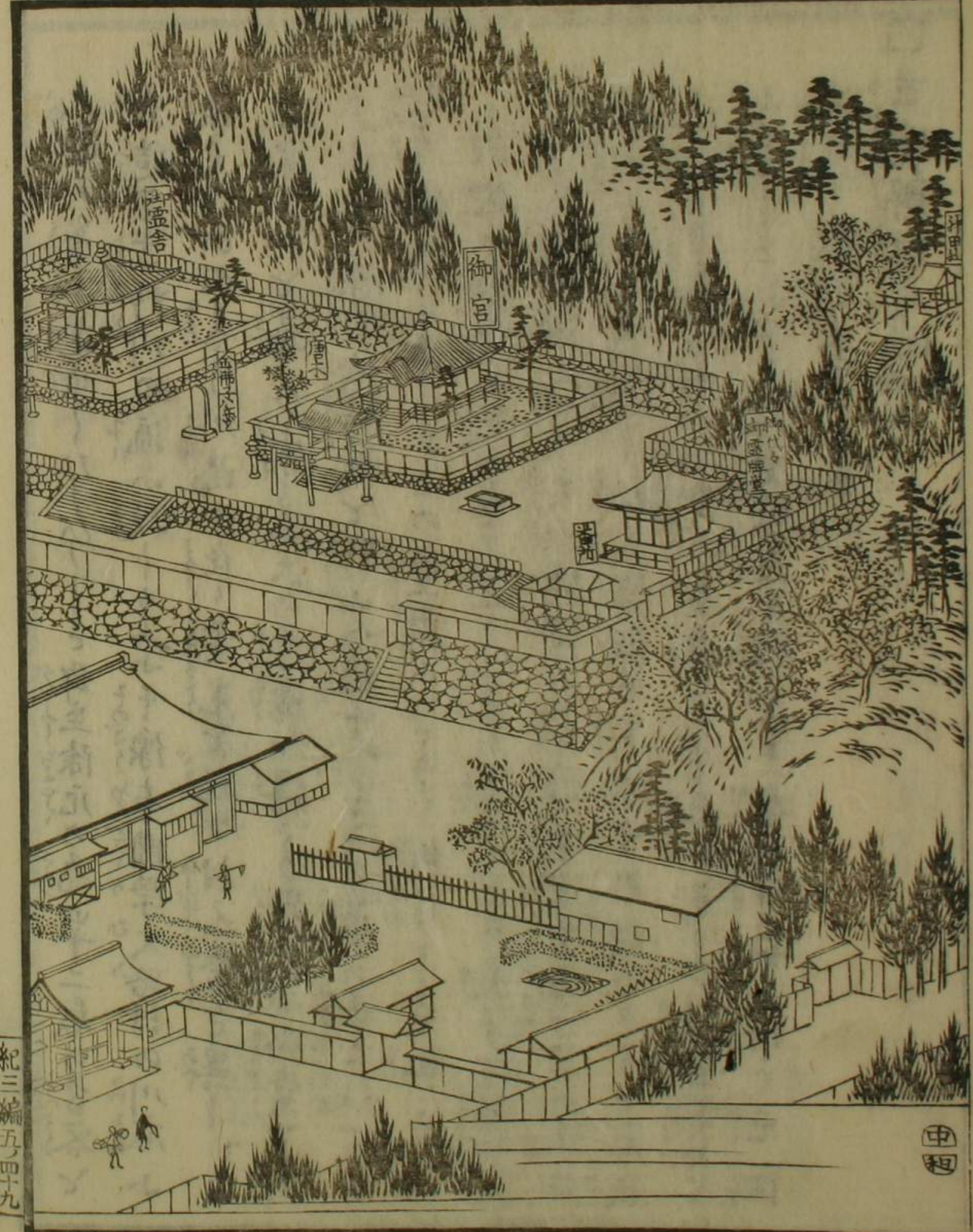
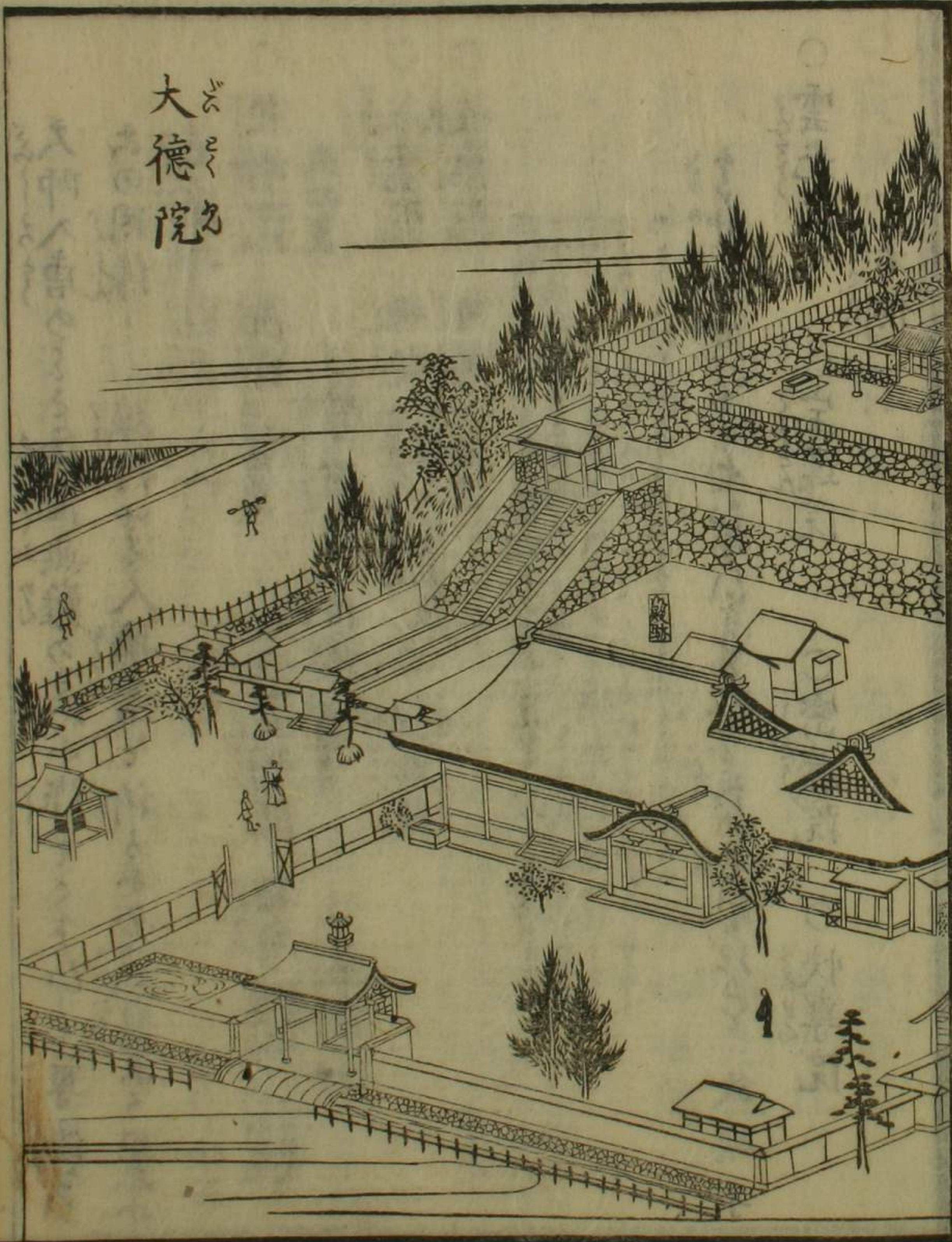
組三編五四十五

立原政生

巡寺の神幸の図



大徳院



之座の統法聴聞し人の徳を施主段に我朝の
 御果報目出さる隱岐の御所至り御果報目出さる
 持明院とて人耳を驚かし隱岐の御所の御果
 報の末代の賢主明主と諸道と與に榮耀目出さる御座
 申す申すなりあり今生に思召御事なり一期御榮有
 さかして御臨終あり御往生したるにふりて切續て後
 生の御果報賞さるべきと世に遠國へ移されさる人
 うり一旦の御歎ありと是御歎と善知識とて先
 業の過とも悔い當來の苦患を思食して罪をか
 らせさせしむ如此に後生の御事御逆修もわき
 へ往生浄土の素懐もなごりととらたのり賞を修へんが
 今生の御果報も目出さるべし持明院の二期御心もま
 だ御思召も空しく御事なめされ縁と

して往生の御行もあらば來生にありかき御位の
 事り且らの御樂も後世の御勤なくば二をともか
 御果報も御事なり今生に一旦の榮耀後
 生の御事ありありの御事あり御事あり

千手院

壇場の東四丁許あり千手観音の
 堂ありと名なり小田原谷につく

右側

- | | | | |
|-------|-------|----------|-------|
| ○ 千藏院 | ○ 常樂院 | ○ 成就院 | ○ 唯心院 |
| ○ 理源院 | ○ 正龍院 | ○ 正賢院 | ○ 明慶院 |
| ○ 一乘院 | ○ 光輪院 | 檀契 藤堂和泉侯 | ○ 智恩院 |
| ○ 真福院 | | | |
| 左側 | | | |
| ○ 善宝院 | ○ 甘露院 | 檀契 甘露寺殿 | |

○理性院 ○全光院 檀契 長洲吉川
 ○明星院 ○雨宝院 ○幸福院 檀契 林肥後侯
 □千手観音堂 大塔とあり 本尊千手観音 胎土 不動明王 昔大師作
 此地壇場の鬼門小當り故大師伽藍擁護のゆゑ弘仁十
 年小彫鏤す一丈六五像の千手観音なり此像奈々々
 後大治年間蓮意上人再度是を造り後嘉禎年中化千
 上人二丈四尺の尊容と改造と志る小正保四年の火之上
 小漸く脚頭とせし奉る今猶堂裡小あり近來置る所の
 尊像は何人の改造せし事と志る也
 □萬日堂 千手堂の
 側小あり
 寛平年間一異僧庵とこの地小結び一ある日の間一刀三體
 大師の尊像と携り一々大師影現顧盼して曰くある日の
 造功勤るもつべしと異僧愕として起拜する像も又た方



と顧る今ふく像と改めずと

○大善院 ○林松院

□青面金剛堂不詳

□熊野権現社建治年間一過上人 勸請

○觀性院 ○密花院 ○長壽院

□合幹不動堂千手堂の根方一丁許

大師當山鬼門保護の爲創とす所なり曾て本堂を作らん

とて應ふ所の尊とす作ふきと思ひ惑ひて春日明神不祈求

くまひくまふ師が憶念する所の尊像半身と作す我もす

半身と作すと告ぐ大師即この尊と造る終る合す

宛一手と出るがゆゑとす合幹不動尊とすと又地藏

尊像一軀あり由來詳

□秘井不動堂の 良があり

玉川の水源とい傳ふ人得くこも不觸ま必病ひ

○高杉院 ○真光院

○西方院檀契 岡部彦 ○般若院

○德藏院 ○櫻樹院 ○正觀院 ○真善院

○西生院檀契 木下彦 ○南性院 ○明福院

○南藏院檀契 一柳彦 ○本覺院檀契 加藤彦 稲葉彦 市橋彦 細川彦

□天満宮國城院の南にあり往還あり 爰ふく廻と天神小路と

相傳ふ天曆年間雅真上人一山の火災と壓んぐるふ勸請

一奉す所かりて後一遍上人神の天夢と蒙るる也

小卓湯

○定光院 ○福生院 ○德善院檀契 小笠原彦 内藤彦 和彦 平野家

○金剛院 ○深王院 ○普門院 ○曼荼羅院

○金剛頂院 ○寂靜院

□

千手院橋

千手院谷より
小田原谷小架と

紀伊國名所圖會三編卷之五高野山之部中終

紀三編五五十四

